

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1092400025		
法人名	株式会社 彩華舎		
事業所名	グループホーム さら		
所在地	群馬県甘楽郡甘楽町白倉831-58		
自己評価作成日	平成26年10月29日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号		
訪問調査日	平成27年11月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・運営推進会議を設ける事で、地域の方が来所された際に利用者の方々と談話されたりできる場をつくることで「地域とのつながり」を重要と考えます。またその時期や季節に合ったイベントを職員が企画や立案し、利用者様と職員が双方で楽しめる時間を大事にしています。そのほか、日頃の家事(掃除や洗濯物干し)などを利用者様と職員が共同で作業を行う事で、利用者様に役割ややりがいを感じて頂ける様に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者のお顔に表情があり、いくつかあるソファに座り寛いでいる。その様子を職員が温かい目で見守っている。居室作りにも努力の跡が伺え各利用者の日頃の様子が分かるような設えである。玄関からは自由に出られることから利用者が安心した生活をしている姿が確認できた。外部評価の結果を長年に渡り真摯に受け止めてきた結果でもあり、年数が経つごとに過ごしやすい生活を提供しているように見受けられた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者が交代したことで、職員に負担がかかってしまっている懸念があるが、スタッフ会議を適時設ける事で、課題点や対応策を話し合い、問題点を共有していくようにしています。	利用者のその人らしい生活の仕方に視点を置き、職員が「この人にとって今何が大事なのか」を考え意思統一を行いながら支援に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天候に恵まれた日などは職員と利用者がホーム周辺を散歩に出掛けられる事がります。その際は近隣住民と話をしたり、子供と戯れたりされる場面もあり、交流ははかれています。	事業所の前の道が通学路になっており子供たちが話しかけてくれる。また、住宅も増え散歩の際には挨拶等で交流している。地域から広報や甘楽便りを届けてもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年6回運営推進会議を開催、近隣の方々や役所からも参加して頂いていますが、その中で利用者様の状況を報告する中で、認知症状について説明させて頂く事があります。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を設け、役所や近隣の方をお招きし、近況を報告させて頂いています。利用者様に関わって頂くほかにも、避難訓練にも参加をお願いしています。	定期的開催されているが行政の担当者が出席していない回がある。会議の中で災害訓練を実施し運営推進会議メンバーに参加してもらった。日常生活の様子を報告し意見交換がされている。	行政関係者の毎回の会議への出席に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役所に毎月ホームの近況を記した報告書を提出しています。そのほか、ご家族の方に毎月各職員が担当している利用者様についてのお手紙を送らせて頂いています。	管理者が日常的な報告や連絡を行っているほか、空き情報の報告や地域包括支援センターに出向き連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当ホームでは日中時間帯について、玄関を施錠しないことで、身体拘束をしないケアを行っています。法人全体で職員研修を行い、倫理規定の浸透に努めています。	玄関や共用空間の引き戸は開錠されている。玄関には鈴を付けて工夫し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。外に出たい利用者とは一緒に外に出ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待を生まない様に、職員の疲労や心情、ストレスがないか、日々把握するように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が交代したことで、職員全員への周知はできていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結・解除時には運営規定や重要事項説明書等に基づき、家族が了承して下さるように十分説明を行う様努力しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時には第三者機関相談窓口・苦情相談窓口に関する内容を書類と共に説明しており、また玄関には苦情・要望に関する意見箱を設置しています。	家族には面会時や便りで日常生活を報告し、困っていることがないか聞いている。体調の変化等で家族から説明を求められることもある。本人からは普段より表情が硬い時には気を付けて聞き、本人の希望を家族に繋ぎ、反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員それぞれの考えや意見について、耳を傾ける事に注力しています。一つの議案に対し、一人一人から意見を聴きだして、最終的に取り決められる様にしています。	スタッフが家族から情報を得た時には共有している。会議では事前に意見を提出したり、申し送りノートに記入していることは誰もが家族に説明できるように気を付ける等議題にあげ話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員に対し賞与を渡す際などそれぞれ、適時管理者と話す時間を設け日頃の思いをくみ取る様にしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員へは個別の能力にあった外部で開かれる研修への参加の機会を提供しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型の連絡協議会で行われるエリア会議を通じて、他施設との交流や意見交換を行うようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様からの訴えや言葉を受け入れ、気づいたことなどを記録や申し送りノートに記入するなど、職員間で情報共有して統一した対応を心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、これまでの生活や心身の状態を把握して問題点や要望をはっきりさせてホームでどのような生活をして頂くかを伺っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様とご家族双方の心理状態や経済面などを考慮して、当初以外でのサービスが望ましいと判断した場合、他のサービスを紹介するなど、相談や支援するようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と職員が家事を共同で行う事で、役割や生きがいを抱いていただけるようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方に対し、近況を報告させて頂き信頼して頂ける体制づくりに努めています。他に毎月生活の様子を職員が記した手紙を送らせて頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間は制限はなく、ご家族の方以外の方が来所された際も、お茶等をお出ししゆったり過ごして頂いています。	手紙のやり取りの支援や絵を描くこと、読書、ハーモニカ、大正琴等の趣味を続けることの支援や続けられなくても居室に置いている。利用者の知人の方が慰問に来てくれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様それぞれの個性、互いの関係性や様子を考慮し、ご本人に意向を重視しつつレクリエーションなどへの参加活動が円滑に行えるように、職員が段取りを考えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族の方が来所されたり、訪問させて頂く関係の方がおります。関係を保ちつつ、必要に応じて相談や支援を継続していくように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で言葉や表情などから利用者様の意思を推測し、それとなく確認しています。意思の疎通が困難な方はご家族などから情報を頂いています。	日常の様子や言動等から思いや希望を把握したり、家族等からの情報を参考にして、時には本人と家族との意向の違いを考慮して、本人の思いを家族に伝え情報を共有し、希望に沿った生活が送れるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の生活で利用者様から聞いた身の上話、面会時にご家族の方から聞いた事を記録して、ケア状況に応じた関わりの中で、声掛けを工夫したりして活かされています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各勤務帯ごとに利用者様それぞれの生活の様子を記録しています。一人一人の生活のリズムを理解し、行動や言葉、表情からその方全体を把握するようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員とケアマネがともに利用者様の意向や状況を鑑みつつ、ご家族のニーズを尋ねて主治医や看護師と連携し、介護計画を作る様にしています。	月に1度モニタリングを実施している。随時や季節の変わり目毎には計画の見直しを行っている。できることや役割等をプランに盛り込んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の実践情報や観察などを申し送りの他、個別の記録を残し、スタッフ会議等で検討を行っています。全職員に周知することを目指しつつ、状況の応じて対応を変更する事もあります。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員は日頃から利用者様とご家族の意向を十分把握し、サービス提供出るよう柔軟な体制を構築し信頼関係を築けるよう努めています。また状況にあった支援が出来る様にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年2回ほど、保育園の慰問があり交流の場となっています。また運営推進会議に出席する方も立ち寄って下さる事も有ります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医による定期健診のほか、体調を崩された方に対し、ご家族の方に報告しつつ受診に承諾を頂き緊急に受診する場合があります。ホームの協力医を活用するよう診療体制をとっています。	入居時に説明し協力医またはかかりつけ医の継続かを選択できる。協力医による往診が月に1～2回ある。受診は基本は家族支援だが代行もできる。必要時には訪問歯科受診が受けられる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	地元地域の正看護師を職員として配置しています。対応や受診に際し随時相談や連携体制をとっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、利用者様の心理面の負担を軽減できるように、ご家族他担当医師、看護職員とともに話し合いの場を設けています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	担当医師や看護師と密に連携し、ご家族と共に終末期に対して、今後の方向性を話し合う機会を段階に応じて行っています。	指針がある。家族・医師・職員との話し合いを段階的に実践する。看取りケアについては準備段階から話し合うタイミングを考慮しながら取り組む申し合わせがある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に備え、全職員に緊急対応マニュアルを確認してもらい、半年に一度の避難訓練時に応急救護の指導も消防署による直接指導も行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	半年に一度のペースで消防署の指導の下で、避難・消火訓練を行っています。非常持ち出し袋も常備しており、訓練には地域の方々にも回覧板で参加をお願いしています。	定期的な年に2回の災害訓練を1回消防署の立会いの下昼夜想定で総合訓練を実施している。1度は運営推進会議時に実施した。利用者と職員地域住民が参加した。備蓄として水・レトルト食品を3日分用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全ての職員は入職時に守秘義務に関する誓約書に記名しています。なれ合いにならない、尊厳を守った声掛けや対応を心掛けています。排泄時には他の方に聞こえないよう、声のトーンを落としたりする対応を行っています。	各利用者に合ったレクリエーション等を実施、羞恥心に気を付けること、イライラする職員には交代させて支援するように職員間で共有している。夜間は個別に利用者の昔話を聞く機会もある。ご夫婦が向かい合って食事をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の方々が馴染みやすく、理解しやすい言葉がけで自己決定しやすいよう努めています。希望や意向が表現が困難な方は、何を提供するかを考えて支援を行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	就寝、消灯、起床時間を定めず状況に応じて、自由に過ごして頂くよう努めています。意思表示が困難な方は、何をしたら喜んでいただけるか考えて支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ひとりひとりの好みを重視した対応に努め、利用者様に選択して頂けるようにしています。理解が困難な方には職員が季節感のある服装を提案したり、ご家族の好みをお聞きして対応させて頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様ひとりひとりの咀嚼、嚥下能力にあった形態や量の調整や好みを重視して提供しています。野菜の皮むき、下ごしらえ、テーブルふきなど出来る範囲で家事作業に参加して頂いています。	刻み食やソフト食をその人に合ったスプーンや軽い食器、器の模様にも気を付けて提供している。畑で作った野菜が食卓にあがり、おはぎや行事食を提供している。できることは手伝ってもらっている。	飲み物のメニューを作り飲みたい物を選択できる仕組みを作してほしい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みの飲み物を把握し、常に数種類そろえており時間を決めずに随時摂取して頂いています。食事にもその方に応じた食事量、形態にあわせるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っています。必要に応じて、声掛けや見守り、介助にて口内を清潔保持を行っています。就寝前には義歯をお預かりして、洗浄剤をいれて、保管しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意、便意を訴えない方に対し、安易にオムツを使用せず排泄記録表、排泄の兆候から排泄リズムの把握に努めることで、可能な限りトイレでの排泄が行えるように努めています。	チェック表を参考にするが独自のサインやソワソワ感、訴えて誘導している。夜間も各人の定時誘導やパットの大きさを使い分け気持ちよい排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	トイレ時を中心に腹部マッサージを行っています。また水分摂取量の調節や食べ物(ピルクル等)を取り入れ、排便サポートを行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様が気持ちよく入浴できる時間に浴う様、可能な限り業務として入浴の時間帯、曜日は設定しない様にしています。	毎日浴槽にお湯を張っている。概ね15時から16時に入浴支援をしている。入浴表があり当日の入浴者と2日以上入浴していない人を優先して声をかけている。	入浴日を決めることなく全員に声をかけて希望する人には支援してほしい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様ひとりひとりの疲労度や生活リズムの把握に努め、自然な休息、入眠ができるように声掛けなどを工夫したりしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各薬の効能、用法については看護師から正しい確認、方法を指導して頂き、各職員が利用者様の疾病を把握し、服薬に対して飲み込むまで見守り対応を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お互いの関係を調整しながら、生活歴に合わせた仕事、役割となっていることを行って頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	健脚な利用者様だけでなく、車椅子の方でも近隣を散歩出来るようにお誘いしています。花見や紅葉狩りなどでドライブでの外出も行っています。	外出は日常的にはできていないが、デッキに洗濯物を干したり庭先で風や陽にあたる機会がある。花見や買い物・外食等個別で出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、利用者様自身で金銭を所持している方はおりません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話のやり取りなどが支障なく行えるよう、職員が仲介しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルに職員が持参した花々を飾り、落ち着いて雰囲気づくりを行っています。玄関先にも花を植える事で、室内からでも季節感を感じて頂ける様にしています。	いすやソファ、テーブルがいろいろな向きで置かれ、相性等に配慮されている。畳の部屋もあり不快な臭いはしない。ウッドデッキ越しに天気や外の景色、人の出入りが良く見える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	静けさを求める方や読書をされる方、TV鑑賞される方など利用者様それぞれ、ご自身の居場所を見つけられるように各所にソファを置いたりしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や身の回りの品など、利用者様が使い慣れた物を持ってきていただくよう、入居時よりご家族に働きかけを行っています。	何でも持ち込みは自由である。ベッドやポータブルトイレ、化粧品、趣味の物や日用品がその人らしく整理されている。どの部屋も不快な臭いはしない。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様がご自身の部屋を直ぐに確認出来る様に、氏名を書いたプレートを設置しています。トイレ等に向かう際にも、途中でソファ等に休んでいただくなど、生活行動範囲を考慮しています。		